

令和6年度 第2回新しい学校の在り方検討委員会 会議録

- 1 と き 令和6年12月10日（火） 15:00～16:00
- 2 と こ ろ 大垣市役所6階 教育委員会室
- 3 出席委員 芳賀高洋岐阜聖徳学園大学DX推進センター長、吉田秀慈小中校長会長、
宇津慎一小学校長会長、田辺美樹中学校長会長、渡邊友三郎校長、
松村麻里PTA連合会代表
- 4 事務局 細江敦教育長、平松事務局長、小倉学校教育課長、
伊藤教育総合研究所長、林学校教育課主幹、押谷教育総合研究所主幹、
中川学校教育課指導主事
- 5 傍聴者 なし
- 6 次 第
 - 1 開会
 - 2 あいさつ（細江教育長）
 - 3 議事
 生成AIグループからの報告
 - 4 あいさつ（小倉学校教育課長）
 - 5 閉会

開会 15:00

発言者	発言内容
事務局	1 開会のことば（略）※議事以外の司会進行
細江 教育 長	2 あいさつ（略）
事務局	3 議事 生成AIグループからの報告 （事務局からの説明の概要） ・学校現場における生成AI活用の可能性を探るため、R6年度に3回の勉強会を実施（7月、9月、10月） ・勉強会の中で、実際に生成AIを試した。デモアカウントを付与し、学校でも実際に校務に使ってもらった。 ・校務での主な活用例 - 教材作成、学校行事の企画、報告書作成、保護者向け文書作成など。ただし、すべて「たたき台」として活用。 ・導入における課題 - 個人情報保護への配慮、著作権保護、教職員のAIリテラシー向上の必要性。 ・今後の展開の提案 - 来年度は実証校を設定して検証を行い、再来年度の本格導入可否を検討してはどうか。 - また、児童生徒への導入についても検討をすすめてはどうか。
A委員	質疑応答・御意見 ・個人情報の問題があると説明があったが、具体的にどういうことか。
事務局	・個人名や成績を入力し、その情報を生成AIが学習することが起きることを懸念している。今回使った生成AIは学習しないシステムになっている。
B委員	・生成AIが学習する以前の問題がある。生成AIがどのように個人情報を使っているかが、開発者でも分からないことが問題である。 ・これまでは、プログラムがあるので、それを解析すれば分かるが、生成AIはどのようなふうに学習し、どれくらい反映されるかが不明な部分がある。 ・生成AIによっては、学習しないよう設定することができる。

発言者	発言内容
	・学校現場で導入する際は、一括して登録した方がよいが、学習しないというのは、生成AIの精度が上がっていかないという問題も生まれる。
C委員	・生成AIのメリット・デメリットを知り、活用していくことが必要である。デメリットを詳しく知ることができると、安心して使うことができる。 ・生成AIの導入を進めていこうとすると、メリットが前面に出てしまうが。失敗例を教えてもらえると、その失敗を活かして活用することができる。 ・インターネットが導入されたとき、最初は怖かったが、どういうものか分かれると不安感を取り除くことができ、使うことができた。 ・デメリットや失敗例を具体で見せてほしい。そうすると、使い始めやすくなる。
D委員	・今回生成AIグループの長をした。グループの先生方は、積極的に使ってくれた。今回試した生成AIは、学習指導要領をきちんと読み込んでいる。 ・生成AIはマジョリティが働き、多数派の意見に偏ることがある。アメリカの大統領選挙の絵を作成させると白人ばかりになる。子ども達が見たときに惑わされてしまう。大人は、生成AIも間違ふことがあるという前提で使っているが。 ・校務として使うには、とても有効だと思う。道德の物語資料を複数作成し、教師がその中から選ぶことができる。その資料の使い方も示してくれる。 ・生成AIにやりたいことをいかに指示するか、意図がはっきりしていれば、的確に答えてくれるので活用できる。 ・若手職員には、既に活用しているものがある。教師のリテラシーの育成が必要である。 ・C委員の意見のように、失敗例をみんなで見ることができると検証することができる。そういった意味で、来年検証することは大切だと思う。
E委員	・自分で生成AIを使ったことがない。 ・事務局の説明で「たたき台」という言葉がたくさん出てきた。やはり、人が考えることは必要だと思う。 ・教員が使ってみて、どの職員が活用できるか検証する必要がある。 ・本校のグループのメンバーだった職員は、始めは反対派だった。

発言者	発言内容
	・この職員は、子どもが活用する視点から考えると、導入には反対だったが、本人は今、普段から活用している。 ・膨大な資料の中から大切なことを抽出することに長けており、抽出した内容を職員に広めている。 ・ただし、世代によって活用が違う。今、担任はほとんどが平成生まれで、令和の子が入学してくる時代になる。若い世代は、こういったものの活用がうまい。 ・いろいろな使い方があり、どの世代も使うことが大切だと思った。
F委員	・企業などでは、生成AIがすごく活用され、効果があると聞いている。 ・子ども食堂をやっているが、市への申請書を作るときに活用できそうだったと思った。自分も使ってみたい。 ・子どもであれば、高校受験の面接練習に活用できそうである。学科によって、面接で尋ねられることが違うので、そういったことにも対応してくれそう
B委員	・小5を対象に、生成AIの授業を行って、アンケート調査を行った。 ・授業前のアンケート調査で、生成AIを7割の子が知っているという回答した。 ・生成AIについて、家の人に説明できるかという問いに、「まったくできない」は33%、残りの子は、少しは説明できると回答している。 ・他の人が使っているのを見たことがある児童は49%。 ・使ったことがない児童は69%、一方で、何度も使ったことがある児童は17.5%いる。 ・子どもたちが生成AIを使うことを意識していなくても、組み込まれているものもあるので、知らないうちに使っており、実際に使ったことがある児童はもっと多い。 ・スマホが生成AIの普及機になっている。 ・先生たちも、とりあえず生成AIの特徴を知ることが必要。 ・有料版の生成AIを使うと、指導案が作れる。教科書出版者が作っているものとそっくりなものできた。ある意味、定番なものが出来上がる。保守的な内容になる。 ・頼りすぎると、新しい教材開発を阻害してしまう懸念があるので、野心的な指示をする必要がある。 ・生成AIが作るものが間違えではないことが、(頼り切ってしまうため)問題である。

発言者	発言内容
A委員	・ 10年前の社会科の授業は、一つの答え求められたが、今は、将来の社会に向けての考えなど、多様な答えが求められるようになり、授業も変わってきた。今後も生成AIの活用で授業も変化していくであろう。 ・ できるだけ多くの先生に体験してもらい、触ってもらいたい。
吉田 委員長	
芳賀 委員	6 講話（略）
事務局	7 閉会のことば

閉会 16 : 00

前記のとおり、相違ないことを証するため署名捺印する。

令和7年2月13日

委員長 吉田 秀慈 印

本会議録の作成に係る職務を行った者

学校教育課 小倉 正裕 印